

越前町議会・令和5年12月定例会一般質問【石田和朗議員】

(令和5年12月6日 午前10時40分 開始)

○4番(石田和朗君) 議長のお許しを得ましたので、通告に基づいて一般質問をさせていただきます。

映画「おしよりん」の萩野小学校笈松分校の今後についてです。

前置きが少し長くなるかもしれませんが、ご容赦ください。

先日、文部科学省選定の映画「おしよりん」を見ました。おしよりんとは、田畑を覆う雪が固くなった状態を指す福井の言葉ですが、丹南地区ではしみると言います。おしよりんになれば、回り道をしないで学校や好きなところへ行ける。今年の2月、大阪の親戚の孫が織田の家に来て、ちょうど大雪の後で、まさしくおしよりん状態で、我が家の田畑で飽きずに飛び回っていました。子供心によっぽど楽しかったんでしょう。よい思い出だったんだろうと思います。

映画では、北乃きいや小泉孝太郎など豪華キャストで、内容は、福井県の眼鏡産業の礎を築いた増永眼鏡を描いた、そうしたサクセスストーリーですが、冒頭で福井県の観光スポットを紹介してPR映画が流れ、令和6年3月、北陸新幹線福井延伸開業を見越した観光誘致目的でつくられた作品。例を見ない出だし、オープニングには初めて見た県外の一般観客は驚いたでしょう。福井に関心を寄せてくれ始めているのではと今後を期待しています。

越前町を訪れる動機づけにもなったのではないかと思います。もちろん福井を離れている多くの人が映画を見て、郷愁を感じたことでしょう。

町長は撮影現場の萩野小学校笈松分校に表敬訪問し、大勢のスタッフ一同に差し入れ、激励されているのが福井新聞に大々的に掲載されて、すごいことになったと私は思いました。福井県は全国47都道府県では田舎。越前町は県下7市8町で、人口減少が著しく、なかんずく笈松は過疎化しています。

県下17市町が映画撮影箇所ですが、スポットライトが当てられた映像の大半が増永眼鏡工場の看板が掲げられた萩野小学校笈松分校です。当然のこと、セットが限りなく多いでしょうが、見覚えがある校舎階段の映像は懐かしく見ました。

そこで、お伺いします。

全国で廃校、閉校、休校とかが数多くあり、中にはリニューアルして成功例もあるかと聞きますが、それはそれとして昭和30年頃、越前町内には小・中学校とその分校の数、現在はどうなっているのか。古い話かと思いますが、よろしくお願ひいたします。

○議長(佐々木一郎君) 教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長(高木剛彦君) それでは、石田議員のご質問にお答えいたします。

昭和30年頃には、朝日地区には小学校が3校、分校が3校、中学校が2校ありました。宮崎地区には小学校1校、分校が2校、中学校は1校です。越前地区には小学校5校、分校が2校、中学校が2校あり、織田地区には小学校2校、分校が4校、中学校1校がありました。

町内全体では小学校が11校、分校が11校、中学校が6校の計28校ありました。現在は、小学校8校、中学校4校の計12校があり、残りの16校は、笈松分校以外は再整備され、集会施設、観光施設、保育所などで利用されているところもありますが、取り壊して更地になっているところもあります。

以上でございます。

○議長（佐々木一郎君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） このように越前町もだんだんと子どもの数が少なくなり、必然的に空校舎が目立ってきて、問題が山積みとなっていると思います。

最近になって文部科学省は、未来につなごう みんなの廃校プロジェクトを立ち上げました。それによると、少子化に伴う児童・生徒数の減少により、全国では毎年450校程度の廃校施設が発生していて、現存する廃校施設の約80%が様々な用途に活用していることをネット上で発信しています。

そして、積極的に有効活用していくことで話題性があり、メディアからの注目、地域に根差した活動が可能、元学校ならではのメリットなどなど、様々な好例がありますとみんなの廃校プロジェクトは事例集を発表して、廃校活用推進を図っていますが、果たしてそうそうばら色なものなのか、懸念事項のほうはるかに多いと思います。

福井県は、北陸新幹線福井延伸を映画「おしよりん」の活用でPR活動を行っています。越前町もこれほどまでにスポットライトを浴び、「おしよりん」で名声を得た萩野小学校笈松分校を将来にわたって足跡を残していけないものかと私は考えています。

大野市は年に数回しか見られない雲海による天空の城、大野城を全国各地にニュースさせて、多くの方が訪れています。笈松はもうすぐおしよりん、凍みの季節になります。映画の始まりでやんちゃ坊主2人がおしよりんでたわむれ、最終章では、おしよりんでやんちゃ坊主にかわいい女の子がちらりとほほ笑んだのは、私の胸を打ちました。映画のエンディングに曲と一緒に流れる町内の協賛者や事業所の名前を見つけ、感動いたしました。

○議長（佐々木一郎君） 石田議員、通告書に基づいて発言してください。

○4番（石田和朗君） 萩野小学校笈松分校の今後について、老朽化が著しく、耐久性にも欠けている萩野小学校笈松分校を何とか足跡が残る選択肢がないものかと考えています。

維持管理やいろいろな意味で困難であるなど大変だと思いますが、廃屋になって跡形もなくなってしまうのは残念です。整地化されるかもしれないと思っている私は何としても残したらと思います。町長はどのようなご所見なのかお伺いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員のご質問にお答えいたします。

萩野小学校笈松分校は、昭和16年11月に落成しましたが、児童数の減少により昭和60年度から休校し、平成16年4月に廃校となりました。

その後、平成21年に廃校となった校舎を有効活用しようと笈松区、入尾区の地域住民や卒業生等による昭和の学校笈松分校運営委員会が設立され、春の遠足や文化祭、収穫祭などを実施しておりましたが、メンバーの減少や高齢化などにより、平成30年度をもって活動を終了いたしました。

映画「おしよりん」では、増永眼鏡の工場として校舎が撮影現場となり、木造2階建ての建物は映画の中でも当時をほうふつさせる1つのエッセンスになっていたと思います。

福井県観光連盟では、今年10月と11月の2回、映画「おしよりん」の公開を記念し、ロケ地巡りバスツアーを実施したと伺っております。しかしながら、本校舎は今回、このような形で活用されましたが、建物の老朽化が極めて著しく、今後存続するには多額の改修費用が必要となることや入尾・笈松辺地総合整備計

画年度別事業計画において、令和8年度解体となっておりますので、現時点では計画どおり実施する見込みとなっております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） 私が望んでいる回答とは相当離れていますが、質問を閉じます。
終わります。

以上です。

（午前10時53分終了）